

- 日 時 平成25年7月25日（木）10：44～11：16
- 場 所 中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、伊達副大臣、久間議員、原山議員、青木議員、内山田議員、中鉢議員、大西議員
阪本内閣府審議官、中野審議官、森本審議官、山岸審議官

○議事概要

議題1. 環境エネルギー技術革新計画の改訂の基本的な考え方について

- 原山議員 議題1に入らせて頂きます。環境エネルギー技術革新計画の改訂の基本的な考え方について、事務局から説明して頂きます。

<内閣府 山田企画官から説明>

- 原山議員 本件、久間議員がリーダーシップをとっていらっしゃるので、何かコメントがございましたら。また他の議員もコメントがございましたら。

- 久間議員 環境という切り口は非常に重要である。一方において、エネルギーに関してはアクションプランの重要分野となっており、成長産業の柱となります。だから、出来るだけ同じフォーマットでそれぞれのアイテムを整理してまとめようとしております。

それからもう一つ、何と言っても、25%削減目標をゼロベースで見直して、技術で世界に貢献していくという、非常に難しい宿題を与えて頂いている中、日本のCO₂削減技術、それに係る色々な設備を海外に展開していくというところが一つの大きなポイントになると思います。グローバル競争力がないと、それぞれの製品が海外に売れない訳です。そういったところも含めて、ロードマップや全体的な戦略を作る必要があると思います。これから政府で、環境エネルギーの長期的なプランが色々出来ると思います。エネルギーミックスをどうする等の方針に役立つ資料、或いは方針が出た時に、例えば再生可能エネルギーや、火力を組み合わせるとどう実現するか等を示せる資料を作っていきたいと考えています。

- 原山議員 ご質問、コメントございましたら。如何でしょうか。

- 大西議員 今、久間議員が仰ったこと、私も同感です。日本は枠組みを外れているので、CDM（Clean Development Mechanism）という言葉は、直接は使えないということだろうと思いますが、そうした概念、これをもっと強化することによって、国内ではなかなか厳しいけれども、全世界的には日本の貢献でこれだけ減ったという、そこはきちんと示すことが非常に大事だと思うのです。だから、ある意味では既に日本の中では普及している技術を上手く途上国に持つことによって、ものすごく温室効果ガスの削減を進めることが出来るということには有り得る訳です。総合科学技術会議は新たな技術開発を担当するのですが、全体としては、技術的には必ずしも最先端の技術だけではないと思いますが、しかしそれを実際に適用してもらうには、やはり資金的な問題が要るだろうと。何れその国でもメリットがあるのだという説明が出来るのが一番良いけれども、設備投資を、まだ耐用年数がある、例えば設備に対してやらなければいけないということも有り得る訳です。そうすると、その分の経済的な負担というのをどうやってやるのかという議論が出てくるので、そこは日本の負担でやるという、そういうことも含めて考えていかないと、技術だけの話ではないと思います。その辺も含めて、上手く整理をしていくことが必要かと思えます。

- 中鉢議員 以前の取り組みから、技術的には最新の技術も今開発されている訳で、技術的なアップデート、それから制度的なアップデート、それから今後の展開に対してもっと明確な筋道をつけるという点で、極めて基本的なことが織り込まれていると思います。コメントですけれども、私の経験で、昨年のJ E I T Aの中で、I T製品の関税撤廃というのを今のWTOというか、世界の関税機構の中から特出しをして、決してこれだけは、I T製品については全ての国が成長に資するという観点から関税を撤廃しよう。これはI T製品と同様に、環境エネルギー技術についても関税を撤廃して、今の国際的な貿易の枠組みとは離してやっている。これ、事務局に聞きましたら、十分にやられている、展開されているということですが、もう少し日本がリーダーシップをとって、こういったことを進めては如何かなど。実情どの程度これが運用されているのか、I T製品については、I Tアグリーメントという、I T Aという形で国際的に日本とアメリカとヨーロッパが中心になって進めている訳ですけれども、やはりI T製品についても先進国と後進国の意見の対立がありまして、環境についてもそういうことが十分予想されますので、そういった国際活動も考慮して、積極的におやりに

なったらいいのではないかと。攻めるというふうに。

○原山議員 青木議員、どうぞ。

○青木議員 今、国際というのが出ました。それはこの二国間・地域間の交渉、枠組みを作っていくというのでも、日本がリードする為にも大事なことだと思いますので、地道にお願いしたいと思います。

○原山議員 国際的な視野を盛り込むということで対応させて頂きたいと思います。それでは、以上で本議題を終了させて頂きます。

議題2. 資源配分の方針（案）について

（率直な意見交換の場とするため非公開）